



朝来市内の地域歴史遺産保存活動の広がりについて (フィールドレポート2)

田畑, 基

(Citation)

Link : 地域・大学・文化 : 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報, 15:103-108

(Issue Date)

2023-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100489539>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100489539>



Field ² Reports

朝来市内の地域歴史遺産保存活動の広がりについて

田畑 基

はじめに（まちづくり地域歴史遺産活用講座の実施）

朝来市が神戸大学大学院地域連携センターと連携して、生野の石川家所有史料である膨大な古文書の整理調査に取り組んでかなりの年月が経過した。その後、当初の取り組みであった石川家文書の整理以外の文書調査にも拡大して取り組んできたが、それは一つのステップにすぎず、まだまだ朝来市全域の取り組みとして発展するには至っていなかった。地域に存在する、あるいは個人や区単位で所蔵される歴史資料の取り扱いについて、文化財課（埋蔵文化財センター）に相談を持ち込まれるケースも多くあった。このことから、朝来市全体の歴史文化をまちづくり活動の一助として活かしていくことが必要であるという認識のもと、平成二九（二〇一七）年五月に神戸大学との共催事業として「まちづくり地域歴史遺

産活用講座『朝来』を開催した。その趣旨は以下の二点である。

- ・朝来市域の歴史文化をまちづくりに活用し次世代に継承していくためには、専門家だけでなく、その担い手として地域住民が主体となっていくことが必要。
- ・「まちづくり地域歴史遺産活用講座」を朝来市で開催することにより、地域住民の皆様がそれぞれの地域に存在する歴史遺産について考え、活用するための基礎的な知識や技術などを学ぶ機会を提供する。

ということであった。

この講座にはそれぞれの個人や地域における歴史遺産の調査方法や保存または管理、更には今後の活用の方法に関する悩みや問題点を抱えている方たち約三〇人が集まり意見交換

を行い、今後の活動の在り方について話し合った。性別はもちろんのこと、年齢や職種の別なく、多方面から参加いただいたことにより、有意義な議論を展開することができた。

本稿では、この「まちづくり地域歴史遺産活用講座 in 朝来」に相前後して行われた地域活動を紹介し、今後の展開について展望することとしたい。

和田山町大蔵地区における歴史文化を活かした地域活動

大蔵地区は、昭和三十一年（一九五六）に養父郡南但町から朝来郡和田山町・竹田町と合併した地区である。この地区内には原始古代からの考古資料に始まり、古代・中近世・近代にいたるまでの豊富な地域歴史遺産が存在する。大蔵地区では古くからこれら地域歴史遺産の存在を周知するためのガイドマップ『ふるさと大蔵のお宝マップ』の作成（平成二十二年（二〇〇九）三月）・地域歴史遺産の悉皆調査（平成二十四年度及び平成二五年度）などが行われてきた。その中でも但馬最大規模を誇る池田古墳は当地域に存在する埋蔵文化財で、平成二五年（二〇一三）に兵庫県史跡として指定された。大蔵地区のまちづくりを中核的に推進する「大蔵地区地域自治協議会」によって、この「池田古墳を活かした地域づくりシンポジウム」が平成二十四年（二〇一二）一月に開催され、地

域遺産の活用とは何かについて活発に議論がなされた。その後も地域内歴史遺産を巡るウォーキングや周知活動など、地域住民対象にした活動が続けられ、平成二八年（二〇一六）には「大蔵の古墳く朝来市大蔵地区の古墳と分布く」、平成二九年（二〇一七）には「大蔵の山城」が刊行され、地域の歴史遺産の保存活用と地域の歴史遺産をとらえた地域独自のふるさとづくりの大切さが示された。その他、地区に伝承されている古文書資料の集約を行い、区公民館に資料室が設けられている。そして区民が何時でも地域歴史遺産を見学することができるよう啓発看板が整備されるなど、現在も活動は続いている。

山東町金浦区における地域史編纂の取り組み

山東町金浦区は京都府と兵庫県の府県境、国道九号線沿いに位置する小集落である。区内には標高三五〇メートルを測る宝山（田倉山）があり、その裾野には朝来市（和田山町・山東町）及び京都府福知山市にまたがって広がる高原（夜久野高原）が存在する。このため、市内にはめずらしく縄文時代から続いていく遺跡や遺物等が確認をされている。中世には丹波と但馬の境界に位置することもあって、地方における「応仁の乱」の主戦場の一つとなったことから、様々な伝承

に加え、石造物など関連する文化遺産も数多い。

平成二十七年(二〇一五)度、金浦区の事業のひとつとして「村の記憶を記録に残そう」の取り組みを進める旨の提案がなされ、地域誌『金浦の歩み』の編纂がはじまった。「金浦の自然・歴史・文化を次世代につなげよう」という大きな目標に向かって進むことになった。

冊子作成にあたり留意された点については、「一人でも多くの区民に読んでもらえる工夫」ということを掲げられた。それはただ単に読んでもらうだけでなく、多くの区民が冊子の内容を話題にしたり、村を大切にして村の行く末に思いを馳せる等、考えたり話し合うきっかけづくりにしたいとの思いが込められた。この地域史編纂の作業を進められる過程で、金浦という地域を舞台にして先人たちが作り上げてきた地域の特色を知ることになり、改めて金浦の地域らしさに気づかされたこと、編集担当の波多野氏は話されていた。この地域誌編纂の取り組みは、平成二十九年(二〇一七)に刊行され完成したが、その後も『金浦の歩み』第二弾の発行や関連行事の開催など、その後の関連した事業展開も進められ、ますます盛んである。なお、この事業の詳細については「わが故郷の記録『金浦の歩み』地域史編纂と活用の取り組み」『歴史と神戸』に詳しく掲載されている。¹⁾

多々良木区における

地域の歴史遺産の調査及び活用の取り組み

旧朝来町にある多々良木地区は旧朝来町内に位置する東西に延びる谷部に存在する地区である。明治八(一八七五)年に合併し多々良木村となる以前は、口多々良木及び奥多々良木村の二村であった。

多々良木区で保有している歴史資料の取り扱いについて文化財課(埋蔵文化財センター)に相談が持ち込まれたのは平成二十九年(二〇一七)八月二日のことであった。後日(八月九日)、該当資料の確認を実施したことに始まる。このとき確認した資料としては、(一)江戸後期から明治初期にかけての多々良木村絵図、(二)公民館の保管庫に所蔵されている区内に関係する古文書であった。

当時、多々良木区長であり、現在も古文書整理会の中核として活躍されている伊藤孝氏や今川武氏は当初から地域の大切な歴史遺産であることを認識されており、瞬く間に地域での古文書整理活動の素地を整えられた。そして、「多々良木歴史研究会」という組織も立ち上げ、活動を軌道に乗せていかれた。

この、多々良木歴史研究会の活動は以下のとおりである。

- 多々良木区有文書のクリーニング・整理作業及び解説
- 八幡神社・行者さん・地蔵等の調査記録
- 多々良木における民俗調査（伝承の記録調査）
- 個人所有の古文書の調査

以上のような内容で多々良木歴史研究会によって活動が実施されてきたが、会の活動は古文書の整理作業が主体となっている。そして、古文書の整理も一区切りついた時点で、現在までの整理の成果を区内外の方に公開し、地域の歴史文化遺産を次代に引き継ぐことの重要性を再確認することとして、「多々良木区有文書展く古文書から先人の暮らしを知ろう」とタイトルされた展示会が開催された（平成三一（二〇一九）年四月二八日～五月三日開催）。この展示会には市内外から一〇〇名ほどの来場があり非常に意義深いものとなった。すなわち、明治期からの近代文書が中心であったことから初めての来場者にも比較的理解しやすかったことに加え、古文書資料だけでなく地域の歴史遺産全般にわたる資料も展示され、来場者にとってもなじみの深いものになったことや、地域住民が主体になって行われたということもあって、古文書を所有している個人の方や代表者の方も多く足を運ばれた。これにより地域歴史遺産を介した情報交換の場ともなり、付近の

歴史資料の存在を確認できる場ともなった。このような場が生まれたことによって、今後の多々良木歴史研究会の活動の方向性が明確になったように思う。区有文書の整理が終了してからは、同じ区内の個人所有の古文書の整理活動に移行し、現在では多々良木区以外の古文書整理にも手を広げている。現在、会の名称も「多々良木歴史研究会」から「あさご古文書整々会」と名を変え、新たに規約も作り、ますます活発な活動形態へと発展している。現在では会員も多々良木区の方ばかりではなく、広く朝来市内外からも参加されている。歴史好きな方が集まっているので、古文書だけでなくいろいろな話が飛び交う。これによって会の活動にも広がりが出てきた。グループラインも作り、常に地域の歴史遺産を議論する場も出来ている。今後の会の活動が楽しみである。

竹田区有文書の整理活動について

竹田区は、言わずと知れた国史跡竹田城跡のおひざ元にひろがる行政区である。竹田城跡が「雲海の城」で超有名ななったことから、市内だけでなく市外からの来訪者も多い。この竹田区から文化財課（埋蔵文化財センター）に区有の古文書の取り扱いについて相談があったのは令和三年（二〇二一）六月のことであった。竹田区長会の相談として、竹田区長会

長からの相談であった。

その後の経過については、令和四年（二〇二二）四月三日（水）から月一回ペースで古文書整理開始。その後、令和五年（二〇二三）一月から第二及び第四水曜日の活動として拡大し、現在に至っている。対象となる区有文書は主に大正年間から昭和にかけての行政文書であった。近現代文書であることから、比較的なじみやすく、内容も理解しやすいことから、整理作業も比較的スムーズに進んでいる。特にこの古文書整理に参加されている方が、地域の歴史文化に興味のある方や竹田城跡ボランティアガイドの会の方などであることもあって、この古文書整理作業をしながら地域の歴史文化の会話が途切れることがない。今後竹田区では、この古文書整理をとおして地元主体の歴史資料館を立ち上げる構想もある中で、この古文書をどのようにして地域住民に知ってもらうのか、また今後の地域歴史文化の保存活動などの話題に事欠かない。「自分の家にはこのような史料がある」「〇〇さんのところには、たくさん歴史史料があるのでは・・」「地域自治協議会の活動として、竹田の地域歴史遺産を少しでも知っていたら活動はどうしたらよいのか」など整理作業をしながら色々な言葉が飛び交っている。地域の人が持っている情報は地域に根付いているので非常に面白く、興味深いものである。改めて地元の強い地域力を思い知らされること

多い活動である。

まとめ

今回事例として挙げた地域関係者や団体の活動事例だけではなく、もつと小さな規模として活動されているところもある。たとえば、ある行政区の中にある古文書をはじめとする歴史資料の整理に携わっている方もおられる。このような小さな取り組みもまた重要である。これら、小さな取り組みをされている方々は、朝来市で言えば生野の石川家文書の整理調査に参加され、そのノウハウを生かして活動をはじめられている。少しずつだが、地域の歴史遺産を守っていくという活動の広がりがみられる。

一方で、これは朝来市に限ったことではないが、どの地域でも問題が顕在化している少子高齢化の傾向が顕著であることだ。このことによつて、地域に存在する指定登録文化財や伝統芸能をはじめとする地域歴史遺産を守り、管理することが困難になってきている。たとえば、寺院で言えば、檀家数の減少や寺院を運営管理していく住職の減少などである。宗教祭礼の崇拜対象であると同時に、地域の大切な歴史遺産である仏像が危機に瀕している。その危機感は、まぎれもなく地域が直面していることである。このような危機感に対して

行政の文化財担当職員はどのように関わっていけばよいのだろうか。

さらには近年の人口減少に伴い空き家が増え、建物が維持できなくなってきた。そして、その中に長年保管されてきたものが、貴重な財産（文化財）として気付かず「要らないもの・必要ないもの」として廃棄されてしまうケースが多い。こういったケースには、例えば不用品処理業者との連携により、歴史文化遺産と認識してもらうことができれば、少しでも保護につながり、廃棄処分になることを少しでも防ぐことができるかもしれない（※実際に、平成二九年（二〇一七年）五月に神戸大学との共催で開催した「まちづくり地域歴史遺産活用講座in朝来」に、不用品処理業者の方の参加もあり、その方の情報から個人所有の地域歴史遺産が廃棄処分になるところを水際で防げた事例がある）。

どこの自治体も同じ傾向にあると思われるが、文化財の保護を担当する職員は、考古系の職員が多いように思われる。文化財は埋蔵文化財（考古）だけではなく有形文化財や民俗文化財なども含めた全て（地域歴史遺産）が含まれる。私は、自治体の文化財担当職員は、地域歴史遺産を守り伝える役割が担えるような存在でなければならないと思っている。市民から、あるいは地域から信頼されるような存在になる必要が

あろう。そのためには何が必要か・・・もちろん日々研鑽をつむ必要があるけれども、その第一歩は市民との対話を惜しまないことだと思う。地域力を大きくするきっかけにもなるだろう。地域の人とながりを持つことで、地域の抱える現状を早く、また正確に把握でき、より地域に密着した解決法を見出すことができるのではないかと思っている。

最後に、本稿を作成する機会を与えていただいた神戸大学大学院地域連携センター、朝来市担当の井上舞氏には日ごろからの活動も含め、多大なご指導を賜りました。最後になりましたが感謝を申し上げます。

註

（１）波多野富則 二〇一九「わが故郷の記録『金浦の歩み』地域史編纂と活用の取り組み」『歴史と神戸』第五八巻第二号

（２）井上舞 二〇二二「朝来市連携事業での地域史料整理」『LINK』

一四

参考文献

横尾正信ほか 二〇〇九「ふるさと大蔵のお宝マップ」大蔵地域自治

協議会編

横尾正信ほか 二〇一六「大蔵の古墳く朝来市大蔵地区の古墳と分布

く大蔵地域自治協議会編

横尾正信ほか 二〇一七「大蔵の山城」大蔵地域自治協議会編